

# IPU・30



浅井 勇貴 [左]  
宮澤 芳光 [右]  
いずれも  
ソフトウェア情報学部2年  
平成17年度学生表彰  
「優秀学生賞」受賞

## 「プロ」の青空

7月6日、雨が降りしきる屋下がり。  
「花巻から列車通学の毎日です。バスケットボール部の活動、社会人と組むポート競技(ダブルスカル)で体を鍛える。そして、ブログライティングのスキルを磨くのが夏休みの目標です」と、浅井さん。  
宮澤さんは「目の前のやるべきことを「一つ」ずつ、ベストを尽くしてクリアしていきたいと思います。メディア系を専攻したいですが、教職課程の勉強もやり遂げたい」と、近未来計画を話してくれました。  
しっかりと先を見つめて忙しさに流されない。そんな意思を、自然体で表す同期の二人なのでした。



## ニュース・リリース

### 平成18年度の公開講座

さまざまな知的関心に応え、多彩な教授陣が専門性を活かして興味深いテーマを取り上げます。

- いずれも無料。どなたでも受講できます。
- 講義時間 / 13:30~15:30
- ところ / 岩手県立大学 共通講義棟

#### 9月30日(土)

■ A-1 教養講座  
「**製造業における情報技術の活用**」  
ソフトウェア情報学部 講師/植竹 俊文

■ B-1 大学院特別講座  
「**成長につながる人間関係**」  
看護学研究科 教授/横田 碧

#### 10月7日(土)

■ A-2 教養講座  
「**宗教と政治**」  
共通教育センター 教授/ウヴェ・リヒタ

■ B-2 大学院特別講座  
「**農産物の貿易自由化の理論的背景**  
—農の論理と工の論理—」  
総合政策研究科 教授/並河 良一

#### 10月14日(土)

■ A-3 教養講座  
「**岩手における子育て・健全育成の課題**  
—家族、地域、自治体の役割—」  
社会福祉学部 教授/佐藤 嘉夫

■ A-4 教養講座  
「**野生生物資源の保全と利用をめぐる国際情勢と日本**」  
総合政策学部 教授/金子 与止男

#### 11月3日(金)

■ A-5 教養講座  
「**患者と医療者との関係**」  
看護学部 助教授/平野 昭彦

■ B-3 大学院特別講座  
「**年をとるとぼけるのか**  
—知能の正常な加齢と認知症—」  
社会福祉学研究科 教授/中里 克治

#### 11月11日(土)

■ A-6 教養講座  
「**食べ物のおいしさとレオロジー**」  
盛岡短期大学 講師/長坂 慶子

■ B-4 大学院特別講座  
「**最新の音声認識技術**」  
ソフトウェア情報学研究所 助教授/伊藤 慶明

#### お申し込み方法

※ハガキ・FAXまたは電子メールで受講希望講座(記号番号 A-1~6、B-1~4)・氏名・年齢・性別・住所・電話番号・これまでの受講の有無を、お知らせください。  
※お申し込みは、各講座とも開催の5日前まで受け付けます。同一日に受講できるのは1講座です。

#### お申し込み・お問い合わせ先

岩手県立大学 研究・地域連携室  
TEL/019-694-3330  
FAX/019-694-3331  
電子メール/kouza-06@ml.iwate-pu.ac.jp

### 北東アジア研究交流ネットワーク 第1回フォーラム

ことし1月、全国の研究機関・大学・研究者の横断的な組織として「北東アジア研究交流ネットワーク」(NEASE-Net)が発足しました。本学学長の谷口誠が代表幹事に就任。北東アジア研究の多面的な展開を図るとともに政策提言、情報発信の推進に向けて第1回フォーラムを岩手で開催します。  
● とき / 9月16日(土) 13:30~17:30  
● ところ / 岩手県立大学 講堂

#### ■ 基調講演

「**北東アジアコミュニティの構築に向けて**」  
講師 ● 駐日本 中国特命全権大使/王 毅  
● 日中関係学会 会長/福川 伸次

#### ■ ラウンドテーブル

「**北東アジアコミュニティ構築のために日本はいかに貢献できるか**」

#### お問い合わせ先

岩手県立大学 研究・地域連携室  
TEL/019-694-3330  
FAX/019-694-3331

公開講座  
平成18年度 岩手県立大学  
受講生募集!

## キャンパス 彩



ひとひら一群のアジサイが咲いていました。場所は、東側駐車場と外周路の間です。ひさしぶりに陽光が降り注ぎ、セミの鳴き声も心地よい昼どき。赤紫や白を帯びた姿は、乾きかけの空気の中でも映えていました。

## IPUカレンダー

- 8月**  
1日~9月30日 ● 夏季休業  
1日~4日 ● 集中講義 [宮古短期大学部]  
1日~10日 ● AO入試・面談 I  
4日 ● 「盛岡さんさ踊り」に参加  
8日~11日 ● 前期集中講義  
11日~9月30日 ● 夏季休業 [宮古短期大学部]  
21~25日 ● 編入学試験 出願受付  
23~28日 ● AO入試 出願受付  
29日~9月1日 ● 大学院第1次募集 出願受付
- 9月**  
12日 ● 編入学試験  
18~29日 ● AO入試 面談 II  
23~24日 ● 大学院第1次募集 選抜試験  
29日 ● 秋季学位記授与式  
編入学試験 合格発表  
大学院第1次募集 合格発表
- 10月**  
2日 ● 後期授業開始  
3日 ● 後期授業開始 [宮古短期大学部]  
13日 ● AO入試 合格発表  
28~29日 ● 大学祭 [IPU Festa2006・蒼翔祭]

## リエゾン LIAISON

今年5月から、市民の方々と本学教員が、コーヒーを片手に様々な研究分野について語り合い交流するイベント「サイエンスカフェ」が、毎月、いわて県情報交流センター「アイーナ」で開催されています。開催しているのは、本学在学が設立したNPO法人HCC (Human Communication Center)。彼ら学生も、市民の方々と岩手県立大学をつなぐ「リエゾン」活動の実践者です。サイエンスカフェの詳細はHCCホームページ (HYPERLINK "http://hcc-web.net/" http://hcc-web.net/) でご覧いただけます。是非一度、ご参加ください。(小野寺)

## IPU・30

発行 / 2006年9月1日

公立大学法人  
岩手県立大学  
研究・地域連携室

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子152-52  
TEL/019-694-2000・FAX/019-694-2001  
URL / http://www.iwate-pu.ac.jp/  
e-mail / info@ml.iwate-pu.ac.jp

# いっまでも真摯であれ

## 優秀学生を称えるセレモニー

4月27日、平成17年度の学生表彰「優秀学生賞」のセレモニーが本部棟大会議室で行われました。年次の終了時において、とくに優れた成績を取った学生を称えるのが優秀学生賞の趣旨。その選考は全学が対象です。



一生懸命が認められて、うれしい気持ち

源とした雰囲気の中、スーツ姿で表彰式に臨んだのは、4学部ならびに盛岡短期大学の受賞者16名。教育・学生支援本部長や各学部長らが見つめる中、名前が一人ずつ読み上げられ、谷口誠学長から表彰状が手渡されました。このほか記念品として表彰盾、さらに図書券が副賞として贈られています。



谷口学長を囲んだ記念の写真

### 平成17年度 学生表彰【優秀学生賞】受賞者

#### ●岩手県立大学 優秀学生賞

看護学部	2年 皆川 沙織
	3年 佐久間 政江
	4年 伊藤 亜里紗
社会福祉学部	2年 阿部 泰子
	2年 松田 さとみ
	3年 中村 恵梨子
	4年 小田嶋 悦子
ソフトウェア情報学部	2年 宮澤 芳光
	2年 浅井 勇貴
	2年 石本 喜彦
	3年 三浦 康幸
	4年 角田 明子
総合政策学部	2年 加藤 俊輔
	3年 金野 佳幸
	4年 粕谷 侑司

#### ●岩手県立大学盛岡短期大学部 優秀学生賞

生活科学科	2年 佐藤 志保
-------	----------

#### ●岩手県立大学宮古短期大学部 優秀学生賞

経営情報学科	2年 佐藤 遼
	2年 宮本 正晴

※宮古短期大学の表彰式は4月28日に宮古短期大学で行われました。

# 就職率97.1%の意味を解く

本学の就職率は、これまで95%前後で推移しています。平成17年度（平成18年3月卒）は、4学部を合わせて97.1%。開学して以来、もっとも高い数字を残すことができました。個々の学生に対する教員からのキメ細かな指導、全学を挙げて取り組む多面的な就職支援事業など、早い段階からキャリア形成への自覚を促して積極的な取り組みに努めてきた成果と言えるでしょう。もちろん、学生自らが将来の可能性を真剣に追求した結果である、と断言できます。

え、さらに増加傾向とのこと。新卒学生にとっては売り手市場となっているなど、就職戦線の見通しを楽観視するムードが見受けられます。しかし、多くの企業はバブル崩壊後に終身雇用・年功序列システムの見直し、成果主義の導入、人員削減、さらにリストラとパート雇用による人件費の抑制といった方向へ大きくシフトし、雇用情勢は変容しています。人材に求める要素は熱意・意欲・協調性・理解力・判断力など。基礎的な能力を評価する傾向も強く、あえて数合わせの採用はせず、一定レベルをクリアして

いるか否かを問う厳選採用が顕著です。また即戦力として第2新卒の採用、ある条件を付した職種別採用というように採用形態は多様化。加えて、志望企業から内定を得られる学生と、そうでない学生との二極化傾向も明らかになってきました。公務員については財政規模の縮小、市町村合併の推進という流れを受けて人員の削減傾向が進みます。したがって採用枠は著しく狭まり、状況は年ごとに厳しさを増しています。

用数の増加を予定する企業が相次ぐようになりました。うれしいことに「ぜひ本学の学生を採用したい」と、来学する人事担当者とのパイプづくりにも努めています。各学部の専門性を発揮できる職種への道は、ますます拓けようとしています。四大学生は3年次の秋ごろ、また短大生は1年次の秋ごろ、就職活動をスタートさせます。いち早く自己理解を図り、将来を考え、妥協することなく目標に向かってチャレンジを。そして学び舎を巣立って後、社会の中で確かな居場所を確保できるように願っています。

### 平成17年度の進路状況

学部	卒業生数	就職希望者	就職者[%]	進学者	その他
看護学部	99	92	91[98.9]	2	5
社会福祉学部	106	90	89[98.9]	11	5
ソフトウェア情報学部	148	110	106[96.4]	36	2
総合政策学部	101	88	83[94.3]	5	8
4学部・計	454	380	369[97.1]	54	20

## そして将来の、幸ある職業生活を願う

教育・学生支援室／就職支援グループリーダー 佐藤 誠

## 10月以降の就職支援

### メニュー [3年次向け]

#### ●就職ガイダンス

12月まで延べ5回。企業へのエントリーの方法、面接対策、模擬試験の活用法などを就職情報サービス会社とのタイアップで。



#### ●業界研究セミナー

就職戦線の見直し、業界研究のポイントなどを知る機会。また金融・流通・マスコミ・サービスなど、業界別のタイムリーな動向と採用状況もキャッチ。

#### ●会社説明会

合同企業研究セミナーとも呼ばれ、県内外の企業の採用担当者を招いて面談形式で。めざす企業と仕事への理解を深めるために12月から2月にかけて、延べ5回の開催予定。

#### ●実践講座 [30人ほどで開講]

エントリーシート（履歴書の書き方）／SPI試験対策／マナーやメイクを学ぶコスメ講座／コミュニケーション能力アップ講座／面接対策講座

#### 「しごと」を学ぶ

1年生を対象とする「キャリアプランニングセミナー」（延べ15回を予定）。その内容は、全学共通科目に位置づけられる「人間と職業」（後期開講）の内容が主体です。教員が実践的かつ示唆に富む講義を行うほか、さまざまな分野からゲストスピーカーを招いてアドバイスや指導を仰ぎます。

## 看護師・保健師の国家試験に備える学内講座

バックアップの一環として、看護学部生を対象に。教育・学生支援室と専門対策校が連携。だから実践的なメニューです。

●問い合わせ先  
教育・学生支援室 就職支援グループ／荒澤  
TEL.019-694-2020

## 名講義の思い出とともに

平成18年度 名誉教授の称号を授与



前列・左から）天野巡一、曾我正和、谷口誠学長をはさんで、漆崎健治の各氏

IPUを離れても、お元氣かと存じます。在職時の講義風景などが目に浮かぶようです。それぞれの知見を活かす教育・研究での功績に敬意を表し、名誉教授の称号授与式が5月31日、学長室で行われました。沼田俊昭・古川浩一の両氏は都合のため欠席しましたが、他の3氏は授与式の後、谷口誠学長、古澤真作副学長、伊藤憲三研究・地域連携本部長らと歓談のひと時を過ごしました。

平成18年度の顔ぶれは、次の通りです。  
※氏名／在職時の職位など／専門領域

<p>沼田 俊昭 副学長 教育学</p>	<p>曾我 正和 教授 ソフトウェア情報学部 システム工学</p>	<p>漆崎 健治 教授 総合政策学部 理論経済学</p>	<p>古川 浩一 教授 総合政策学部 経営学</p>	<p>天野 巡一 教授 総合政策学部 政治学</p>
------------------------------	---	--	--	--

# 共通教育センターのビジョンと実践

## 全学共通科目の深化に向けて

基礎科目・教養科目・保健体育・外国語というカテゴリ。4学部が集う混成クラス方式で開講されるのが「全学共通科目」です（一部の科目を除く）。その企画・実施ならびに教育内容の研究・深化を担う中心的なセクションとして、この春から「岩手県立大学共通教育セン

ター」が運営されています。同センターは全学的な視点でビジョンを描き、共通教育に関する方向性を示します。また科目編成やカリキュラムの深化・高度化に向けて学内の意思統一を図ったり、連携の仕組みをコーディネートしたりする中心的な機能を担っていきます。その位置づけは、学部と並列な関係にある教育担当組織です。特化した専門機

能も明確化されたことで、より充実した学びを求める学生の声に応える体制が整いました。センター長ほか、専任の語学系教員「英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・中国語・韓国語」、そして体育実技と教職科目の教員が17名。さらに4学部から1名ずつの兼任教員という陣容です。



岩手県立大学共通教育センター  
共通講義棟1階  
TEL 019-694-2150  
FAX 019-694-2151



 ■講師/ダガン・スーザン =英語	 ■助教授/黒本 哲也 くまもと てつや=フランス語	 ■センター長/細江 達郎 ほそえ たつろう =教育・学生支援本部長を兼務
 ■講師/高野 泰志 たかの やすし=英語	 ■助教授/黒岩 幸子 くろいわ ゆきこ=ロシア語	 ■副センター長/板垣 完一 いたがき かんいち=英語
 ■講師/高橋 英也 たかはし ひでや=英語	 ■助教授/高橋 裕美 たかはし ひろみ=保健体育	 ■教授/ウヴェ・リヒタ =ドイツ語
 ■助教授/金野 マサ子 この まさこ=看護学部と兼任	 ■助教授/藤井 義久 ふじい よしひさ=教職科目	 ■教授/姜 奉植 かん ぼんしっく=韓国語
 ■助教授/宮城 好郎 みやぎ よしろう =社会福祉学部と兼任	 ■助教授/三宅 禎子 みやけ よしこ=スペイン語	 ■教授/佐藤 智子 さとう ともこ=英語
 ■助教授/戴 壁 だいいん =ソフトウェア情報学部と兼任	 ■助教授/劉 文静 りゅう ぶんせい=中国語	 ■教授/松本 裕司 まつもと ゆうじ=教職科目
 ■教授/木場 隆夫 きば たかお=総合政策学部と兼任	 ■講師/岩本 淳 いわもと じゅん=保健体育	 ■助教授/伊東 栄志郎 いとう えいしろう=英語

## 志望動機を固めよう

1900人あまりが参加した  
大学説明会

平成18年度 大学説明会の参加者  
※カッコ内は前年度

看護学部	461名	[ 468名]
社会福祉学部	458名	[ 433名]
ソフトウェア情報学部	306名	[ 332名]
総合政策学部	324名	[ 312名]
盛岡短期大学部	334名	[ 299名]
宮古短期大学部	20名	[ 54名]
高校教員	26名	[ 19名]
合計	1929名	[1916名]

高校生で満員御礼。7月2日の日曜日。あいにくの雨模様でしたが、大学説明会は盛況でした。駐車場には県内外からの大型バスが並び、キャンパスでは自由参加組や親子連れの姿も目立ち、本学への関心の高さが伝わってくるようでした。

メディアセンター、学生ホール棟、学部棟などの見学。一般入試、アドミッション・オフィス入試に関する個別相談。「受験生の諸君へ」と題した学長講演。さらに、教育・研究の特色をアピールしたり入試要項を説明したりする学部ごとの説明会。高校教員を対象に、進路指導説明会も行われました。

「ぼくは環境問題に興味があります。そうした領域を総合政策学の方法で勉強するのが希望なので、ナマの話の聞きに来ました。2年生と3年生を合わせ、うちの高校からは100人あまりが来ています」と、黒沢尻北高校の2年生男子。総合政策学部ならではの魅力、そして勉強の面白さと奥深さを語る学生有志の熱意に接して納得の表情でした。

## 勉強のこと・キャンパスのこと

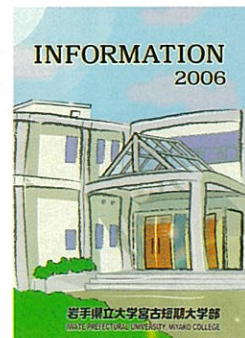
2007年度版・入学案内を配布しています。



盛岡短期大学部・入学案内



四大版・入学案内



宮古短期大学部・入学案内

### 資料請求先

■岩手県立大学  
岩手県立大学盛岡短期大学部  
教育・学生支援室 入試グループ  
TEL 019-694-2014  
FAX 019-694-2035

■岩手県立大学宮古短期大学部  
事務局  
宮古市河南1丁目5番1号  
TEL 0193-64-2230  
FAX 0193-64-2234



社会福祉学部棟では、函館を早朝に発ってきた三人組が受験への決意を固めてい

ました。それぞれ介護福祉士、精神保健福祉士、保育士を就きたい職業に挙げて「国公立志望です。夏休みから本気で勉強します」。その傍らには、児童福祉を学ぶ先輩たちが丹精こめて作った七夕飾り。これからへの希望、世界の平和、さらに合格祈願などを綴った短冊が揺れています。



## 岩手県立大学 説明会



公立大学法人岩手県立大学  
平成18年度の人事体制

役員

■理事長	市川 喜紀
■副理事長 [学長]	谷口 誠
■専務理事/教学担当 [副学長]	船生 豊
■専務理事/財務担当 [副学長兼事務局長]	古澤 眞作
■理事/教育・学生支援本部長	細江 達郎
■理事/研究・地域連携本部長	伊藤 憲三
■理事 [非常勤]	有賀 貞一
■理事 [非常勤]	工藤 洋子
■監事 [非常勤]	近村 功一
■監事 [非常勤]	村野 栄司

部局長

岩手県立大学

■学長	谷口 誠
■副学長/教学担当	船生 豊
■副学長/教学担当	太田原 功
■副学長/財務担当 [事務局長兼務]	古澤 眞作
■看護学部長	坪山美智子
■看護学研究科長	兼松百合子
■社会福祉学部長	佐藤 忠
■社会福祉学研究科長	高澤 武司
■ソフトウェア情報学部長	菅原 光政
■ソフトウェア情報学研究科長	石亀 昌明
■総合政策学部長	幸丸 政明
■総合政策研究科長	幸丸 政明
■教育・学生支援本部長	細江 達郎
■研究・地域連携本部長	伊藤 憲三

岩手県立大学 盛岡短期大学部

■学長	谷口 誠
■副学長/教学担当	船生 豊
■副学長/財務担当 [事務局長兼務]	古澤 眞作
■短期大学部長	高橋富士雄
■教育・学生支援本部長	細江 達郎
■研究・地域連携本部長	伊藤 憲三

岩手県立大学 宮古短期大学部

■学長	谷口 誠
■副学長/教学担当	太田原 功
■副学長/財務担当 [事務局長兼務]	古澤 眞作
■短期大学部長	太田原 功
■教育・学生支援本部長	細江 達郎
■研究・地域連携本部長	伊藤 憲三

サークル  
元気で



●ダブル・ダッチ・サークル  
僕らは、跳ぶパフォーマー

「縄跳びにパフォーマンスの要素を添えたのがダブル・ダッチだと言えます。もともと、ニューヨーク生まれのストリート系サブカルチャーだと聞いています。2本のロープを使ってリズム感・バランス感覚・独創性を表現する点に魅せられてしまいました」(部長・石田博昭/総合政策学部2年)。

この春、サークル会連合会に加盟したばかり。4人の創立メンバーは、それぞれ高校で野球、体操、サッカー、テニスに打ち込んでいました。すぐれた身体能力を活かしてアクロバットな妙技を追求しますが、ただ跳ぶだけの楽しみ方も奥深いのです。練習は昼休み、メディアセンター脇のスペースで。大学祭に登場するほか、滝沢村の小学生への指導にも意欲的。「一期一縄」のココロで、仲間を募集しています。



夏を楽しむ



7月7日●七夕祭

学生会が主催する恒例行事。宵を迎える頃、共通講義棟と短大棟エントランスが賑わい始めました。七夕にちなんで季節の情緒を添えたのは「天の川」をイメージしたバルーンアート。バルーンアートサークルの面々がPRを兼ね、丹精こめて作ったものです。音楽系の各サークルが熱演、熱唱を見せる中、模擬店にも人だかり。モールでは「さんさ踊り」の輪が見られ、踊り手もギャラリーも大いに盛り上がりました。

7月12日●IPU MUSIC FESTA

テーマは「No Border」。昨年の好評を受け、今年も開催。ジャンルを問わず音楽に関係するサークルの有志が力を合わせ、楽しい「夏フェス」が育ちつつあります。サークルごとの活動では生まれにくい、横のつながりを創ること。音楽を通じた交流に、学内の、いろんな人が加わるようにすること。こうしたテーマを掲げて企画を練り、準備を重ね、およそ10団体が参加してステージライブの日を迎えたのです。

仕事場  
訪問

総務財務室  
●予算経理グループ  
●管財契約グループ



決算を終えて、スマイル

机に向かって数字を扱う皆さんの仕事ぶりは「静」のイメージ。経理業務をはじめ、入出金や資産の管理を担当するのが総務財務室の予算経理・管財契約両グループです。このほど法人化1年目の締めくくりとして、平成17年度の決算を取りまとめました。「監査法人の指導を受け、一年がかりの作業です。すべて初めてのことなので試行錯誤もありましたが、これから活かせる収穫も多く得られました」(管財契約グループ主査・高橋啓三)。

このポジションでは的確な事務能力、調整力、そして全学的な幅広い視野が求められます。言うなれば、教育と研究の現場が活性化するよう陰ながら支える立場。企業会計方式に則って、健全な財務体質づくりへの貢献は続きます。

法人化初年度・平成17年度の決算概要

損益計算

[単位：千円、%]

区分	平成17年度	
	決算額	構成比
1 経常費用	6,237,523	92.8
(1) 業務費	5,912,710	88.0
① 教育経費	1,543,123	23.0
② 研究経費	941,740	14.0
③ 教育研究支援経費	92,063	1.4
④ 受託研究費	99,293	1.5
⑤ 受託事業費	630	0.0
⑥ 役員人件費	11,026	0.2
⑦ 教員人件費	2,632,390	39.2
⑧ 職員人件費	592,445	8.8
(2) 一般管理費	324,813	4.8
2 臨時損失	483,450	7.2
その他の臨時損失	483,450	7.2
費用合計(A)	6,720,973	100.0
1 経常収益	6,629,740	93.2
(1) 運営交付金収益	4,631,586	65.1
(2) 授業料収益	1,215,344	17.1
(3) 入学料収益	193,447	2.7
(4) 検定料収益	45,211	0.6
(5) 受託研究等収益	99,567	1.4
(6) 受託事業等収益	630	0.0
(7) 補助金等収益	22,582	0.3
(8) 寄付金収益	5,418	0.1
(9) 資産見返負債戻入	319,873	4.5
(10) 財務収益	69	0.0
(11) 雑益	96,013	1.3
2 臨時利益	483,441	6.8
承継物品受贈益	483,441	6.8
収益合計(B)	7,113,181	100.0
差引損益(B-A)	392,208	
前期繰越利益剰余金		
当期末処分利益剰余金	392,208	
利益剰余金処分(案)		
(1) 積立金	4,418	
(2) 教育研究・施設環境充実目的積立金	387,790	
処分案計	392,208	

※表示単位未満を四捨五入しているため、内訳が合計と一致しない場合があります。

392,208千円の利益

本学は、公立大学法人に移行して初年度となる平成17年度の「業務の実績に関する報告書」および「財務諸表等」を、岩手県に提出しました(6月30日)。この号では、その概要をお知らせします。

このほど県に提出した内容に関しては評価・承認の手続きが行われた後、正式に公表、公告される予定です。

- 企業会計方式を導入しました。
- 平成17年度の利益は、392,208千円です。
- 受託研究・共同研究および受託事業は、国・県等の行政機関ならびに民間会社等から合わせて23件の受け入れがありました。
- 「受託研究18件・共同研究4件・受託事業1件」
- 利益剰余金に関しては、教育研究や施設環境の充実に向けて活用する案が検討されています。



# これからの世界と、日本の針路とは？

## 元・国連事務次長、明石康氏を招いて国際講演会

広く市民に開かれた大学として、さまざまな知的関心に応える公開講座のプログラムが充実しています。平成18年度のオープニングを飾ったのは、5月27日に開催された「第一回 国際講演会」です（滝沢キャンパス講堂）。国連で事務次長を務めた明石康氏を講師に招きました。「国際平和を求めて」と題した基調講演に、およそ350人の受講者が聞き入りました。

国連に勤務していた当時の経験と見聞を交え、興味深い視点を提示しながら聴衆に語りかけた明石氏。国際紛争の解決、あるいは世界的な平和を維持するための基本理念や枠組みのあり方に言及しました。さらに「わが国の外交は、人的な面でも貢献度を深めていくべき」との見解も。これからの国際社会で日本が果たす役割について、示唆的なオピニオンが述べられました。



また明石氏は「アジアにおける日本」をテーマに、谷口学長との対談にも臨んでいます。歴史認識をめぐる近隣諸国とのギャップの存在などを踏まえ、いかにして信頼関係を構築していくか、という論点で意見が交わされました。

## 自治体と、初めての連携協定

### ——紫波町と包括協定——

#### さまざまな分野でマチづくりに貢献、紫波町との絆は深まっています

地域性を捉え、さまざまな政策課題に応えながら本学の人的・知的資源を活かす。こうした考えに基づき、紫波町との包括的連携協定が結ばれました。

実学・実践をベースに「社会とリンクする教育・研究を通して地域貢献を」という理念を掲げる本学。また、マチづくりに関する多岐に渡る場面で大学との協働を図り、その成果を未来につなげようという指向する紫波町。これまでは高齢者支援システム・食育ネットワークの構築に、ソフトウェア情報部の教員が協力してきました。また市民参加条例の制定に向

け、総合政策学部の教員が参画した事例も見られます。いくつかの経緯を踏まえて締結された包括的連携協定の目的は、自治体とのさらなるリレーション強化を図ること。本学としては初めてのケースです。

協定の締結式は7月1日、紫波町校町のナックスホールで。藤原孝町長ほか町政・議会の関係者、さらにマチづくり団体・NPO・商工関係者など地元からの出席者は多彩な顔ぶれでした。一同が見つめる中、壇上で署名に臨んだ谷口学長は藤原町長と握手を交わし、その後の記念スピーチでも、より発展的な連携に向けて本学が果たす地域貢献の深化を協調。新たなステップへの決意、期待感を表しました。



今後、紫波町との意見交換や協議の場が持たれます。幅広い分野を視野に入れ、実践的なテーマとプロジェクトが検討されていくこととなります。

## 留学生サロン



看護学部/1年  
樊 培焱さん  
●中国・河北省から来日

### いつか、国境を超える看護職

病気を患った人、ケガを負った人をケアするための看護を学ぶ。それは尊厳の心に発して、人間が人間を支えるための術を習得することに通じます。

このような動機を強めて看護学に目覚めた樊さんは、北京へ列車で1時間という、廊坊市の出身。とくに強い関心を寄せている国の一つ・日本で学ぼうと決めました。ゆくゆくは、インターナショナルな立場で看護の仕事に就きたい。そんな希望を叶えるべく、最初のステージとして選んだのが岩手です。

「こちらに来て数か月しか経っていないので、日本語のトレーニングと並行して、まずは全学共通科目の授業を受けている感じです。先生が話すことは録音して、あとで復習に活かします。英語も一生懸命に勉強して、いろいろな国で活躍できる基礎を固めようと思います」

# エンカレッジ教育を掲げる宮古短大

## 太田原 功

岩手県立大学副学長 宮古短期大学部長



### 話そう

#### おなじ高さの目線で

平成12年4月、宮古短大に赴任して以来、私は「わかりやすい授業」と「きめ細かな指導」を教職員にお願いしてきた。幸い、創立以来の教育方針と合致するもので「オフィスアワーを核としたエンカレッジ教育」あるいは「学生主役の教育」と名づけ、キャンパス挙げて、この方針

る勉学の場へと送り出してあげるのが短大の役割である。

#### みんなで学生を育てる、という意識

「きめ細かな指導」は学習、生活、就職・進路などの一切を含み、教員だけで行うには限界がある。したがって学生定員200名、教職員30名弱という小規模校では教職員の意思統一

い授業」と誤解して臨むと、ひんしゆくを買い、分かりにくい授業となるだろう。授業評価の例として「熱意は感じるが、内容の理解が不十分に終わった」「教員の話す言葉が明瞭ではない」との回答があった。暗澹（あんたん）たる気持ちになるが、そうした指摘に応じて有効な試みを取り入れ、理解度が増すような授業に努めるのが教員の立場である。さまざまな問題点の解決に向け、熱意と愛情をベースに、真摯な取り組みが行われている。

#### 入試では「意欲」を評価したい

終わりに、入学者の選抜方針について付言する。その基本方針は、高校教育の基本を体得していることで、四大・短大とも全国的に多様な入試方法が試みられている。「良い学生を入学させたい」と、どの大学も異口同音に言う。本学に当てはめるなら、それは必ずしも偏差値の高い学生ではない。望んでいるのは学習の「意欲」を持っている、もしくは「意欲」が期待できる学生の登場なのである。

に取り組んでいる。短大には、いろいろな背景を抱えた学生が入学してくる。4年制大学（四大）に合格できなかった、家庭の事情で四大進学を断念した、部活に力を入れ過ぎた、などなど。自立が十分な学生も見受けられる。これらの事実を直視して指導に当たり、勇気づけ、励まし、学生生活や進路に至るまで、きめ細かく個別に対応する。結果として社会へ、または、さらな

と協力態勢が最も重要で、すべての学内委員会に事務職員が参加している。セミナー単位の学生指導とともに毎週、おなじ時間帯に90分のオフィスアワーを設けるのが基本だ。学生と教職員との一体感は深まるが、熱心であればあるほど、絶対的な時間は足りない。「わかりやすい授業」は教員に二任された領域で、興味をそそる授業、知的好奇心を満たす授業を意味する。教える側が「レベルの低

ここ宮古短大で学んだ学生が磨かれて光を放つ。すなわち希望する企業に就職した、四大の3年次などへの進学が叶った、などの時。さらに、そうした卒業生が将来を嘱望されていると伝え聞いた時、われわれ短大教職員は、さらなる使命を自覚するのである。



盛岡駅西口に、あたらしい学びのスポットが誕生しました。この春にオープンした「いわて県民情報交流センター」の7階、本学が運営するアイーナキャンパス。盛岡短期大学部が主催する公開講座は、バラエティーに富む内容で生涯学習のニーズへ幅広く対応しています。

# アイーナキャンパスで学びませんか。

## 英会話、そしてイギリス文学

若者も、年配の皆さんも同級生——。「地域のくらしと文化を見つめる」を包括的なテーマに掲げ、盛岡短期大学部は、生活・人間・文化・コミュニケーションなどに焦点を当てる教養講座を開催しています。初年度となる今年「外国語・



日本語」「住まいの基礎知識」「日本と西洋の文化」「生活関係」というカテゴリーから具体的なテーマを取り上げました。なごやかな雰囲気の中、受講生の向学心に応える教授陣の奮闘が光ります。延べ6回、旅行で役立つ英会話の基礎編を担当したのはウインスカウスキー・クリスティン教授（国際文化学科）です。笑顔あり、ゼスチュアあり。もちろん、その場でのコミュニケーションは英語を使つて……。さまざまな場面を想定して初歩的な会話を学んだり、相手に意思を伝えるコツを習得したりする機会です。一人一人がプログラムに参加し、実践に即してスキルを身につけられるので学習効果てきめん、といった雰囲気印象的でした。また7月に入ると、吉原修教授（国際文化学科）が専門性を活かして「イギリス詩を味わい、歌う」集いを開催しました（延べ4回）。代表的な詩人に挙げられるヘリック・ワースワース・イエイツなどの作品から、比較的やさしい数篇をセレクト。英語の原文で鑑賞したほか、歌

曲として歌えるように、とアレンジした内容に親しむ場面も見られました。

ています。これから家を建てる若い人たち、子育て世代にも、ぜひ聴いてほしいと思います。こういう場を気軽に利用していただくと嬉しいですね（内田講師）

### 「住まいの基礎知識」 これからの授業プラン

- ※いずれも土曜日
- ※時間帯は13時30分～15時
- ※場所は「学習室4」
- 9月16日●シックハウス
- 10月21日●木質バイオマス
- 11月18日●住宅の断熱
- 12月16日●住宅の換気
- 1月20日●住宅の窓
- 2月17日●住宅の暖房
- 3月17日●住宅建設の資金計画

盛岡短期大学部「公開講座」の受講案内  
お問い合わせ・お申し込みは  
●盛岡短期大学部・事務室へ  
TEL/019-694-2900

## 大学と自治体。

# ががおが見える 交流への期待。



紫波町経営支援部 企画課 政策調整室長

## 佐藤 勇悦

### IPUをもっと知りたい

紫波町は岩手県立大学（以下、IPU）の協力を得て、政策法務やICT（情報通信技術）の活用など、さまざまな形で施策を展開してきました。おかげさまでICTによる行政サービス分野では、新聞社や大学の研究室が行った調査で「全国の市町村トップレベル」との評価を受けています。すなわち、IPUと当町との連携は着実に成果を挙げているということですね。7月1日、IPUと当町は、これまでの実績を踏まえて「包括連携協定」を締結しました。実学・実践を旨とする教育と研究で地域に貢献する、という建学の理念が「紫波（しわ）」の地域でも輝きを増してほしいと願っています。

じつは私自身、恥ずかしながらIPUの学生のことは、全くと言っていいほど分かりません。私と同様の人は、かなり多いと思われれます。たとえば児童福祉や教育の分野で、他大学や専門学校の学生が町内の施設で実習するケースはあるようです。しかしIPUの学生の場合、当町を訪れる機会が少ない点も認知度が低い理由ではないでしょうか。

ひとむきに教養を高め、研究に励む学生の姿が身近に感じられる環境を作っていくことは地域社会にとっても重要で、「包括連携協定」を、より意義深いものにしていくはず。大学からは教職員と学生が、そして町からは役職員ほか一般の方々、企業人も含めて多彩な顔ぶれが集い、「かお」の見える交流を進めたいものです。

### IPUの「かお」をどう活かすか

私から、三つの提言があります。まず第一は、当町を教育・研究のリアル・フィールドとして活用いただくこと。プランや研究は、想定や仮説の上に成り立っていますが、キャンパス内だけではバーチャルな思考に偏りがちではないでしょうか。現場に飛び出して見えてくるものは多いはず。学生にとっては、将来の進路を決める糸口になるかもしれない。4つの学部で、それぞれ実地での対象や方法を御検討いただければ幸いです。

第二は、学生・教職員、町民が参加するメーリングリストの構築です。テーマは、参加者が自由に設定（話題を提供）する。そして、他の参加者がアイデアを提供したり、ざっくばらんに議論したりする。こうした双方向型のコミュニケーションは、お互いに良い刺激になると思います。メーリングリストの成熟度によっては、北東北の将来を考

える場にも発展させられそうです。第三は、コミュニケーションの共同研究です。ふだんは地域情報をリアルタイムに発信する、そんなメディアとしての活用を考えています。さらに、災害通報システムとして果たす機能にも着目。いろいろな声を集めて「どんなことができるか、どんなことをしたいか」とプランの検討を始めています。もちろん、学生有志の参加も大歓迎です。以上、町役場の政策調整部門から、IPUと当町との未来に寄せて。

カルチャーの旅に出よう。



盛岡短期大学部 国際文化学科 / 2年 秋山 ゆみ

進路は決まった

短大に入って2度目の夏は、学生生活の仕上げを意識し始める時期でもある。

すでに就職活動は終わった。6月半ば、ある地方銀行から内定を得て、とても言葉では表せない安堵感に包まれたという秋山さん。卒業したら、郷里の宮城県東松島市での社会人生活がスタートする。

2年生になって早々、企業訪問はピークを迎えた。接客の要素が強い仕事に就こうという意志が明確だったので、人事担当者へのアピールに迷いはなかった。

すこしでも多く社会の実相に触れようと、アミューズメント系や教育分野の会社も受けた。着慣れないスーツで肩が凝ったこと。街をテクテク歩いて靴ずれが痛かったこと。そんな記憶も今、笑って話せる。

忙しい夏休み

「流されない。ときどき立ち止まっては、居場所を確かめる。そうしたら、また先へ」。ふだん意識しているのは、自律的な毎日の過ごし方です。私なりの計画性とかビジョンを持つてことですよね。たとえば、早いうちに自動車学校へ通って運転免許を取らなくちゃ、と決めています。それから、まとめて時間を取りやすい夏休みを活かして卒業研究の素材を集めていきます」

地名を巡る知的探検

秋山さんの関心は、さまざまな地名の考察に向かう。そもその由来、あるいは歴史的・社会的・風土的な背景、そこに生きた人々の精神性や営みの様子。さらに現代へ至って、その地域に特有の諸事情などなど。どの観点から、どのようにアプローチしても探究の魅

力は尽きない。

イメージの源は地図である。じっと眺めていると、ふつふつと想像力を刺激する情報が一面に散らばっていると気づかされる。むずかしい読み方の地名、いわくありげな地名、そして、漢字や平仮名の組み合わせが面白そうな地名。時間が許すなら全国津々浦々を丹念に調べ上げたいところだが、それでは非現実的すぎる。

「そこで、地元回帰という方針を立ててみました。市町村合併で【桃生郡(ものうぐん)】という地名は消えましたが、ふるさとへの愛着は深まっていくばかりです。緑も濃く、太平洋に近い旧・矢本町(やもとちょう)が私の生まれ育った土地です」

8月〜9月はフィールドワークに専念すること。歩く・見る・聞く・調べる。これらの点が、現地での大原則である。地元の役場・図書館を訪ねて古文書や郷土資料を調べ、お年寄りへのヒアリングも試みる予定だ。そうしたプロセスを積み重ね、ワクワクする知的探検は佳境へ向かう。

やるんなら好きな勉強

「英語が好き」というシンプルな理由で秋山さんは、国際文化学科に入学した。高校時代、speakingは得意なほうだったが、いわゆる受験英語への苦手意識を拭い切れないままだった。だからこそ、進学して、もっと適性を伸ばそうと望んだ。

そこで、ネイティブスピーカーに教わる環境を求めた。「いろいろな国

英語圏に飛び出せ

行き先は、アメリカ西海岸に位置する街・シアトル。本学と国際交流協定を結び、留学生も受け入れているイースタンワシントン大学で英語のレッスンをほか、短期留学生が対象のプログラムを履修した。

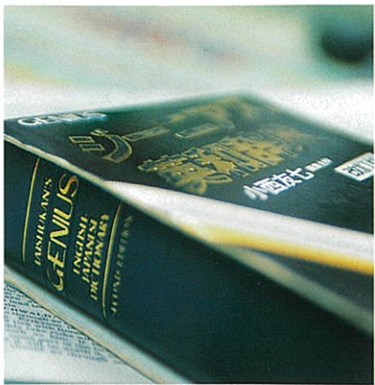
そこは、母語の通じない環境である。韓国や中国などアジア諸国、さらに中南米諸国というように、クラスメイトの出身地は世界各地に及ぶ。「日本語を話さないようにガンバロウね!」。一緒に参加した短大の仲間と誓い合って10日ほど、英語オンリーの濃密な体験を積んだのだった。

現地では心やさしいホストファミリーに迎えられ、ホームステイという貴重な体験も積んだ。仕事と家庭とのバランスを上手く取り、夫妻が仲むつまじく暮らす姿。また、日本からの来訪者を気さくに迎えてくれたホスピタリティー。このように人間としての温かさ、器の大きさに敬服する場面は多かった。しかも、カルチャーや価値観の違いに起因するトラブルとは無縁で終わった。初めての海外で良き思い出を残せたことに、秋山さんは感謝の念を強くしている。

暮らしの場面

●「寮に住んでいます」

まかない付で食事の心配なし。まわりには友達多数。こんな感じで「ひめかみ寮」で暮らしています。前身である旧・盛岡短期大学の時代から続く女子寮の場所は、盛岡市中野です。盛岡駅まで自転車で行き、いわて銀河鉄道の列車に乗って滝沢駅下車。そこからキャンパスへ歩きます。定期代が掛かるけど、寮費が安く済むので経済的な負担は少ないですよ。「寮つながり」で岩手大学との交流があり、新入生歓迎パーティー、そしてスポーツや音楽演奏などの集いを楽しんでいます。



フィールドは、実践テーマの宝庫だ。

ソフトウェア情報学部 教授 阿部 昭博



あべ あきひろ

筑波大学大学院経営・政策科学研究科(修士)経営システム科学専攻を修了、博士(学術、東京大学)。大手メーカー系IT企業の研究開発職などを経て1998年、本学へ。主な研究テーマは情報システムの分析・設計法、地域コミュニティの情報化。岩手県内の企業・行政・NPOと連携、社会ニーズを反映する教育・研究を一貫して進める。情報処理学会、日本社会情報学会に所属。また岩手ネットワークシステム「地域と情報システム研究会」代表幹事を務める。

机上を離れて社会の中へ飛び出すと、たしかに捉えられるテーマがあります。教育・研究の対象として阿部先生が取り組む《社会情報システム》は地域社会や、そこに暮らす人たちの諸課題と不可分の関係です。フィールド(現場)を知り、テーマを探り、問題解決型のプロセスを通して技術的な対応方法を導き出す。こうした流れの中で「きっかけ」を得て、指導を受ける学生は主体的な学びのスタイルを身につけます。ソリユーションをめざしてソフトウェアの応用を図り、システムの構築から運用、そして検証までをも視野に取る方法論。その素地は、民間企業でSEや研究開発職に就いた頃に培われました。「つかえるシステム、役立つシステム」という形でITのメリットを地域社会に示せることが、この領域の存在価値です。また人文科学・社会科学のジャンルと関連する要素が強く、学際的な色が濃いのも特徴ですね。看護・社会福祉・総合政策といった、他学部の専門家とのコラボレーションにも取り組んでいます。RFIDと呼ばれる無線ICチップと携帯電話を活用し、観光情報を送信する地理情報システムの実証試験が平泉町で進行中です。ユニバーサルデザインに対応する先駆的なプロジェクトの頭脳 阿部先生の多忙は続きます。

強いのは、迷いや悩みに克ったから。



医療法人 楽山会 せいいてつ記念病院 / 看護部

麓 智奈美さん・左

菊池 理恵さん・右

[いずれも看護学部・平成17年3月卒]

高校から大学を通してクラスメイトで、仲良しだった二人が地元でUターン。おなじ病院に勤めています。釜石市出身の麓さんは新人時代から引き続き、内科病棟で2年目を過ごしています。消化器や循環器を患った入院患者へのケアなどで忙しい毎日です。「すこしずつ、自信のようなものが湧いてきましたね。仕事柄、高齢者をお世話する場面が多いです。これからは地域社会を巡回する訪問看護など、福祉の分野との接点も深めながら仕事の幅を広げようと思います」。そして、隣町の大槌町に実家がある菊池さん。整形外科病棟、外科系の混合病棟を経て、この夏から透析室に勤務するようになりました。透析認定看護師の資格を取ることが、在学中から

支え、励ます仕事で私は生きている。



財団法人 みちのく愛隣協会 東八幡平病院

菊池 水恵さん

[社会福祉学部福祉臨床学科・平成17年3月卒]

医療ソーシャルワーカー(MSW)として働く菊池さんは、大学で心理学を専攻しました。卒業研究のテーマは「児童を虐待する側の心理」。混迷する社会や子どもが置かれている状況を、ストレートに映し出す内容でした。「社会保障論」「障害者福祉論」「カウンセリング」といった科目を通して社会福祉の存在基盤を理解した成果が、対人サービスの現場で活かされています。職場は、岩手山と八幡平の間に広がる松尾村村台に。とても山が近く、空気が澄んで静かな佇まいの中に、リハビリ施設を併設した病院が建っています。四季が鮮やかで、温泉もスキー場も産直施設も至近距離に位置する当地に、菊池さんは部屋を借りました。受け持ちの仕事は相談業務。医療費

ようこそ、自由なる学問の場へ。

共通教育センター 助教授 三宅 禎子



みやけ よしこ

筑波大学第三学群社会学類を卒業。フェルトリコ大学社会科学部を経て、京都外国語大学大学院・外国語研究科を修了。外国語教授法の一環として、学生参加型の授業をオリジナルで創る。またラテンアメリカ・カリブ地域研究、女性学が専門分野である。アメリカで4千万人にも達するヒスパニック、特に女性を巡る社会的・政治的・文化的な状況を注視しており、こうした分野の論文・著作の執筆にも意欲を燃やす。日本ラテンアメリカ学会会員。

「オーラ! (こんにちは)」と呼べば「オーラ」と応える。シンプルな言葉のやり取りでスペイン語に親しめば親しむほど、コミュニケーションのスキルはアップします。また語学レッスンは、異文化理解へのトビラを開ける第一歩でもあります。「文法とか語順とか細かい点は、あまり気にしないほうが良いのかも。まず話すことから始め、スペイン語という世界的な言語の面白さに目覚めてほしいと思います。またカリブ海や中南米などには、スペイン語を母語とする国が見られます。そのような文化圏を知る手がかりも、私の授業を通して得られるはずですよ」。開学の頃からスペイン語を担当してきた三宅先生は、その博識ぶりを活かして全学共通科目「スペイン・中南米事情」も講じています。ラテン系の音楽に映画、サブカルチャー、そして料理づくり…。入門編だからこそ難しい内容は避け、タイムリーで身近な素材を示しながら知ることに喜びをアシストします。また海外の話題に触発された学生に、ご自身のホームページへアクセスしたり、海外体験者の輪に加わったりするよう勧めています。地球のあちこちで起きていること、社会の様子。さらに、留学や旅に関するリアルな情報。これらを介する人と人との結びつきは、国境も民族も言語も超えて広がっていくのです。